

# きずな

発行  
大善寺  
校区老人  
クラブ  
連合会

## 一月十三日市老連

### 新年懇親会



令和5.1.13市老連新年懇親会

市老連は、一月一三日  
新年懇親会を三年振り  
行いました。  
各区校区老連の人々が  
約一〇〇名参加し、お  
互いに状況を交換し合  
い親睦を深めました。

## 二月八日、大善寺人権

### 委員会平和研修

大善寺人権委員会  
は、嘉麻市と大刀洗  
の平和会館を訪ね米  
軍空襲などの展示と  
解説を聞き、平和に  
ついて、昭和二十年の

状況を中心に研修し、今  
の平和の尊さを学びま  
した。参加者は老人クラ  
ブ三名を含め十五名で  
した。

(堤英生記)

## 大人と子どもの しゃべり場in大善寺

2022.12.20 開催



小学校体育館でのおしゃべり交流の様子

参加者は5年生児童85

名、大人は保護者と地域

学校協議会・老人クラ

ブ合せて30名、試しの活

動として大人は「子ども

っていいな」子どもは「大

人っていいな」と思うこと

を出し合いました。メイ

ンテーマ「大善寺(小・

地域)を良くするために

学校と地域で協力できる

活動」について話し合っ

た。校区の良いところと

してどの班も「鬼夜」が共

通したキーワードとなっ

ていた。鬼夜を盛り上げ

る取組、昔遊びを通した

交流、大善寺には古墳が

あり歴史を学ぶファイルド

ワーク、御塚公園での防

災キャンペーンなど積極的

な発言があった。

今回のおしゃべり場は

大人と子どもにとつて普

段じっくりと話すことの

ない相手と交流すること  
で多くの気付きがあり有  
意義な場であった。  
(大淵哲夫記)

## 「鬼夜」奉納を

鬼夜保存会

### 終えて

会長 岡 巖

三年ぶりの鬼夜を奉納するにあたり、校区老連  
の皆様には御協力に「尽力賜り誠にありがとう」  
ございました。

今年の鬼夜は、二年間のブランクがあり早めに準  
備を始めましたが、やはり難問が山積し、その中で  
もコロナ対策と参加者の確保が懸案事項となり、松  
明の本数を減らすことや小型化することまで議題  
に上がりました。そのような中、文化庁の支援事業  
により「玉垂宮鬼夜行事コロナウイルス感染拡大予  
防ガイドライン」(マスク脱着・境内飲酒の禁止・抗  
体検査実施などA・4版、9頁)を、専門家の方々の  
指導を頂き作成することができました。

また、人員確保が難しい地区の松明廻しについて  
は、他の地区の裸衆が応援に回り、相互協力して奉  
納するという新方式も見えて来ました。それでも、  
大晦日までは不安感が強く漂っていました。

しかし、新年を迎え二日の尻綱廻いに何うと状況  
は一変し、なんととしても「鬼夜を奉納するぞ」と  
いう雰囲気になつていて、驚きつつも鬼夜の盛会  
を確信しました。

千六百年を超える古代から脈々と引き継がれて  
きた歴史と文化、そして地域の方々の誇りは、二年  
間のブランクがあつても揺るぎのない盤石なもので  
した。最後には「鬼夜を奉納したい」という皆さんの  
心が一つになつて、無事奉納することができまし  
た。大善寺校区の皆さんが、鬼夜を核にして強い絆  
で結ばれていることを、改めて感じさせられた今年  
の鬼夜でした。  
以上



玉垂宮



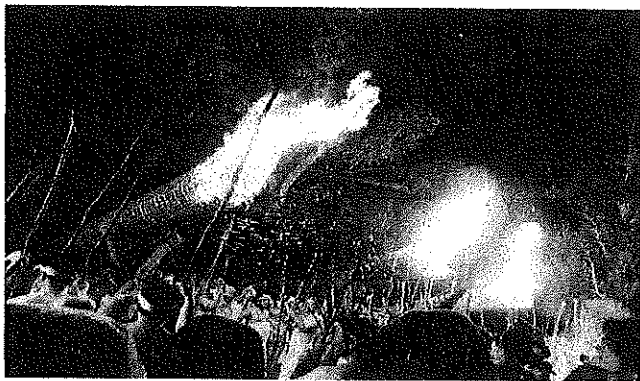
汐井汲み



汐井かき

### 三年振りの玉垂宮

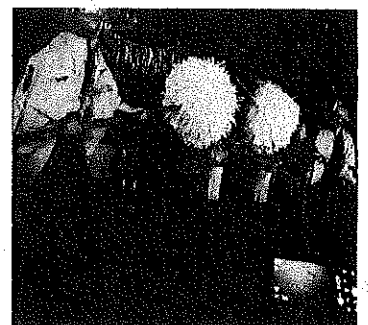
燃え盛る大松明



## 鬼夜

参観者に感動と元気を  
あたえてくれる  
2023.1.7

鬼夜神事の様子



### 鬼夜火祭り 参観記

一月七日の鬼夜が近づいてくると何時もそわそわしてくる。今年は家族連れで見に行くので力はいいつた。午後6時半ごろ家を出て、小学校運動場に駐車し、徒歩で玉垂宮に向かう。霞川の傘橋側道橋は、すでに多くの見物人で溢れている。その傍らで、川床の汐井汲みの儀式を撮影するためカメラマン達が三脚をセツトし橋上で待機している。参道の屋台と見物人の間を抜けて社殿に到着。参拝を済ませて夜店を散策する。やがて神



広島風お好み焼き屋台

域の灯りが消され闇夜の中、汐井汲みの儀式が始まる。交叉した小松明持ち・桶担い・従者を打ち揃えて霞川まで肅々と参道を進む。川中の汐井場は、四本の竹、注連縄、紙垂にて囲まれた神域から御水を汲み取り神殿に奉納された。時を同じくして小松明を掲げた20〜30名の裸衆の団が御手々振の掛け声のもと、オイサーを飛ばしながら参道を駆け、神殿に駆け上がり奉納し、神殿周りを駆ける。他の5グループも繰り返えされる。この汐井かきを終え、一旦引きあげ態勢を整え、やがて大松明廻しの裸衆が順次、大松明の回りに集結し、点火の合図を待つ。点火は七屋夜、神殿奥で鎮められた御神火で行われる。御神火は静々と一番松明の下に運ばれ徐に点火された。間をおかず5本の松明にも一斉に点火された。見物人からは、オー、ワーと云った声が辺りに響いた。一瞬にして六本の大松明は境内を明るく照らし、熱風、熱気が辺りに充満し見物人の心体を暖めていく。松明頭部の燃え盛る様は竜の口火のごとく紅蓮の炎を吐いているようである。炎は、見物人を圧倒し陶酔の境に導いていく。この地だけが春のような陽気を漂わせてくれた。

やがて燃え盛る松明の中、鬼夜神事の儀式が始まった。襖を終え鉾を持った先導者に導かれて赤面・青面を付けて鬼堂前に揃えられた舞台の東西に登場。対峙した赤青の演者は従者の持った鉾を受け取り両者による鉾突き合わせ・赤青の従者が面取ったの掛け声で取り外し・両者、帯びた剣を抜き頭上高く掲げる。これらの神事は、これで終わりを告げる。この間、松明は燃え盛り愈々大松明廻しが始まる。見物人・鐘・太鼓の音に後押しされ、赤鉢巻の責任者の指示で松明にカリマタを刺し突き上げ、手々振の掛け声に裸衆が応じ和して大松明が動き出す。尻部の二本の尻綱は地域住民がしっかりと握り締め大松明廻しに加わる。大松明は裸男の渾身の力で持ち上げられ、竹の燃えはじける音、火の粉を浴びながら大松明が怒涛のように動き始めた。この瞬間が松明廻しの裸衆に、そして尻引・見物人に感動と力を与えてくれる。この時の感動が忘れられなくて私は鬼夜参観に行く。祭りの帰り、参道で祭りを盛り上げる屋台に寄り、広島風お好み焼きを買って家路を急ぐ。